

5. クリスマンに苦しみがある理由

ペテロの手紙#5

<https://ichthys.com/Pet5.htm>

ロバート・D・ルギンビル博士著

第一ペテロ 1 章 1-2 節の改訂訳：

イエス・キリストの使徒であるペテロから、父なる神の予知により、聖霊の聖別を受け、イエス・キリストの血の注ぎかけのもとに従順な者となるために、選ばれた人々、すなわちポントス、ガラテヤ、カッパドキア、アジア、ビテニヤの各地に散らされ追放された人たちへ。あなたがたに恵みと平和が増し加わるように！

解説の復習： 散らされ追放された人たちでありながら……選ばれた人たちに：これまで私たちは、この二つの（一見）矛盾するような信者の描写を用いることで、ペテロが、私たちの永遠の地位が限らない幸福と祝福に満ちたものである一方で、現世ではのけ者として扱われることが予想されるという事実注意到注意を促していることを見してきました。私たちはこの世にいますが、この世の者ではないのです。私たちはまた、これらすべてが神のご計画の一部であることも見してきました。神のご計画の第一段階では、私たちはイエス・キリストを信じて救われ、神の計画の第三段階では、復活の時に新しい完全な体を受け取り、完全な平和と幸福の中で神と共に永遠に生きます。しかし、（時間の中にある信者の）第二段階では、私たちはまだ悪魔の世界にいて、痛み、苦しみ、あらゆる苦難にさらされています。

しかし信者が苦しむとき、それは必ず神の予知のもとで起こります（実際、上記 1 節では、私たちは「神の予知にしたがって」寄留者として描かれています）。神は、私たちが直面するあらゆる問題を知っておられます。実際、神は永遠の過去にご自分の計画を立てられたとき、私たちが遭遇するであろう苦しみについて知っておられました。ペテロは、この 1 世紀の信徒たちや私たちに、神は私たちの問題を知っておられると語っているのです。私たちが信者として苦しむのには理由があり、神は私たちが苦しみを受けを許されるとき、常に私たちの最善の利益を考えておられます。それゆえ、私たちは、「神を愛する私たちのために、神は、御計画に従って召された人々のために、すべてのことを共に働かせて益としてくださる」（ローマ 8 章 28 節）ということを決して忘れてはいけません。もし私たちが苦しみに関する教理的な事実を思い起こすことを怠れば、ペテロが手紙を書いている信者たちのように、苦しみによって心を乱されてしまう危険があります。私たちは、神が私たちを愛し、見守り、そして私たちの人生のあ

らゆる細部に積極的にかかわっておられることを忘れてしまうかもしれません。ここで大切なのは、矯正のための苦しみ(神の訓練)と、成長のための苦しみ(信者の苦しみ、すなわち「キリストの苦しみにあずかること」)とを区別することです。信者の人生のすべての側面は神のご計画の中で重要なものであるため、私たちの苦しみは必ずこの二つのどちらかの範疇に含まれます(ただし、すでに第4課で見たように、人類一般の苦しみは人間の墮落の結果によるものですが、信者の人生は神によって直接導かれているのです)。もし私たちが経験している苦しみが本当に不当な苦しみであるならば、その時にはたとえその意味がすぐにははっきり見えなくても、多くの点で私たちの益となります。反対に、私たちが＜自分の罪のための＞神の懲らしめを経験しているのであれば、その解決策は告白です。

罪の告白： 祈りの中で神に立ち返り、自分の罪を認めるだけで、その罪は赦され、私たちはきよめられることを見てきました([第一ヨハネ 1 章 9 節](#))。罪には三つの本質的なカテゴリーがあります：

- (1) 手の罪(窃盗などの明白な罪； [出エジプト 20 章 15 節](#) など)
- (2) 舌の罪(誹謗中傷など； [コロサイ 3 章 8 節](#) など)
- (3) 心の罪(怒りなど； [ガラテヤ 5 章 20 節](#) など)

パウロが言っているように、「すべての人は罪を犯し、神の栄光を受けられなくなっている」([ローマ 3 章 23 節](#))のだから、すべての信者は時々、[第一ヨハネ 1 章 9 節](#)を活用し、神に自分の罪を告白する必要があります([第一ヨハネ 1 章 10 節](#)も参照)。罪を告白する際に大切なことは、その罪をどう感じるかではないということを忘れてはなりません。当然ながら、私たちは自分の失敗を良く思うべきではありません。私たちはキリストチャンとして成功し、すべてのことにおいて私たちの主であり師である方を喜ばせたいと願っています。同時に、私たちは、自分の罪が赦されるのは神ご自身のご性質に基づいており、しかも私たちが告白するその罪のためにキリストが身代わりにさばかれたのだ、ということを理解しなければなりません。信者が過度に感情をかき立てたり、正常な罪悪感を不必要に大きくしたりするなら、キリストではなく自分自身を問題の中心にしてしまう危険があります。ですから、私たちは失敗を避け、過ちから学ぼうと努めるべきですが、自分が不完全であり、この世にいる間に完全に到達することはないのだという謙遜を持つ必要があります。したがって、私たちは罪の告白という方法を身につけ、過度な罪悪感を避けなければなりません。神から離れてしまったときには、すぐに神のもとへ立ち返る習慣を持ち、自分の行動すべてを常に注意深く点検し、行いによる罪、言葉による罪、思いによる罪のいずれであっても、ただちに告白することが大切です。

祝福のための苦しみ： 私たちが自分の罪を告白したならば、たとえもともとは神の懲らしめによってもたらされた苦しみであったとしても、それは今や祝福のための苦しみへと変えられます。これは、神の御手からの罰に代わる、耐えることのできる道となるのです。

まず注目すべき第一の点は、神の愛によって私たちに与えられるあらゆる苦しみ(心に告白していない罪がない場合)についてです。信者に与えられる苦しみは、必ず耐えることができるものだということです。[第一コリント 10 章 13 節](#)は、この苦しみを「試練」と表現しています(ギリシヤ語 $\pi \epsilon \iota \rho \alpha \sigma \mu \acute{o} \varsigma$ (ペイラスモス)は「試練」または「吟味」の意味です)。ちょうど学校での試験が、その科目の内容を本当に身につけているかどうかを証明するものであるように、神もご自身の計画の第 II 段階において、私たちに「試験」をお与えになります。つまり、私たちがどのように応答するかを見るために、神はある困難を私たちの人生に許されるのです。私たちは御言葉から真理を学ぶことに熱心であったでしょうか。試練の時に神を覚え、神を信頼できるでしょうか。それとも、聖書の学びや真理の適用を怠り、直面する問題から救い出すことができなくなる神を忘れてしまうのでしょうか。[第一コリント 10 章 13 節](#)は、「神は、あなたがたが耐えられないような試練に会わせることはなさない」と約束しておられます。

信者の中には、自分の耐えられる以上の苦しみを負っているように見える場合があります。ですが忘れてはならないのは、自分自身の人生を評価することすら難しい私たちが、他の人の苦しみが「耐えられるものかどうか」を判断することなど、到底できないということです。神は、一人ひとりにとって「強く揺さぶられること」と「折れてしまうこと」との違いを完全にご存じです。神はしばしば私たちを強く揺さぶられることはあっても、決して折ってしまわれることはありません。もし私たちが神に逆らい、罪を繰り返して犯しながらそれを告白することを拒むなら、その苦しみは本当に耐えがたいものとなるでしょう。しかし、私たちが神のご計画に従って歩み続け、犯した罪を告白し、霊的に成長しようと努めるなら、私たちが対処できないようなことに直面することはない、という神の約束を確信することができます。

[第一コリント 10 章 13 節](#)から示される第二のポイントは、神が「脱出の道」を備えてくださるということです。ここで使われているギリシヤ語 $\epsilon \kappa \beta \acute{\alpha} \sigma \iota \varsigma$ (エクバシス)は、文字通りには「出ていく道」、すなわち「逃れる道」という意味です。その直後にある「耐えられるようにするために」という句は、この「脱出の道」が、苦しみを「回避する道」である場合もあれば、「苦しみを通り抜ける道」である場合もあることを示しています。つまり、苦しみの中で神に助けを祈り求めるとき、必ず救いは与えられますが、それがすぐに訪れるとは限りません。苦しみ(そしてそれに伴う信仰の試練)は、私たちがこの地上で歩む神のご計画(第二段階)の欠かせない一部だからです。実際、苦しみがなければ本当の意味での霊的成長はあり得ず、また霊的な前進を証しすることもできません。

次に、クリスチャンの霊的成長において、苦しみが果たす具体的な役割について見ていくことにしましょう。